

平成28年度 第3回 学校協議会 【議事録】

平成29年2月24日

13:00～15:00

[場 所] : 茨木支援学校 校長室

[出席者] : 校長 准校長 教頭 (2名) 事務長 首席 (4名) 部主事 (3名) 指導教諭
協議会委員 (5名)

はじめに

学校長あいさつ

[学校長]

- ・ボッチャについては第2回学校協議会で報告したが、その後、小学部では写真コンテストで入選、中学部ではあいさつ運動が表彰されることとなった。また、教員では、自立活動に関する論文が入選した。
- ・今後も子どもたちが様々な発表をするチャンスをつくり、自信につながる取り組みを進めていきたい。

[准校長]

- ・高等部3年生について、4名が進路において就労希望をしており、4名とも就労できる見通しである。
- ・職業基礎コースの生徒が来年度3年生になる。現在8名が就労を希望している。
- ・今後も実習先の開拓を進めていきたい。

① 会長挨拶

- ・学校長・准校長より、うれしい成果の報告をいただいた。
- ・今は一年のまとめの大事な時期である。今年度の総括をしていただき、また前向きに進んでいていただきたい。そのために、皆様からも忌憚のないご意見をいただきたいと思う。

② 報告及び協議 (※●は協議会委員からの意見、提言等 Qは質問 Aは学校の回答)

<協議会意見書箱について>

- ・意見箱への投書はなかった。

<学校教育自己診断アンケートについて>

[首席より]

- ・最初のページに、アンケートの回収の集計、教員年数の分布などを示している。
- ・「わからない」という回答が10%を超える項目が多かった。今後は質問の内容等の工夫が必要である。
- ・保護者のアンケートについては、昨年度より回収率が下がった。ていねいな働きかけなど、より多く提出いただけるよう工夫をしていく。

- ・教員アンケートについて
 - …大きな課題として、人事に関するものと研修に関するものがあることがアンケートから分かる。
 - …今年度は校務分掌が再編されて初年度であり、業務の引継ぎなどに課題がみられた。
- ・保護者アンケートについて
 - …教員が直接子どもに関わることについての項目では肯定率が高いが、連携や情報提供に関する項目において課題がみられた。
- ・生徒アンケートについて
 - …項目によっては、次年度に向けて、答えやすさや実態がより反映されるよう検討を進めていく。
- ・まとめとして
 - …専門性の向上について、ニーズの高い研修を把握し、次年度の研修計画に反映させていく。
 - …教職員が主体的に参加できるよう内容や実施方法を工夫していく。
 - …新しく支援教育に関わる教職員へのサポート体制を強化する
 - …業務の整理や会議の持ち方についての検討を進めていく。
- 教員アンケートについて、「わからない」の回答が多かった項目はどれか。割合が高いと思う。

[首席]

- ・質問の意図が教員に理解されていない面もある。今後、分析して次年度に向けて改善していく。

[学校長]

- ・学校への貢献度を問うアンケート項目を今年度から新たに追加した。貢献している実感が少ない教員がいる。学校経営計画の項目における「わからない」の回答とリンクしているのではないかと思う。

Q. 回収数と回答数とが一致しない項目がある。なぜ回収数に満たない回答があるのか。

A. 項目によっては無記入のものもあった。

- 回収率については、100パーセントをめざしてもらいたい。また、全ての項目に答える教員集団であってほしい。
- 肯定率が高い項目は良いと思うが、否定率の高い項目について、分析はどうなっているのか。

[首席]

- ・研修を新たに取り入れていくなど、改善を進めていく。
- それぞれの項目で課題を出していただき、まとめられている。分析の結果や課題を次年度にしっかり引き継いでいくことが大事である。
- 肯定率が高い項目が増えているのは、取り組みの底上げがあるということである。

- （専門性に関する項目より）専門性に自信が持てない教員がみられる。保護者は支援学校の教員は専門性のあるプロとして見ている。専門性を高めていくために、どういう研修をして学校として何をがんばっていくのかを全員で共通理解して進めてほしい。
- 安全上の対策や配慮についての項目、健康管理についての項目で、否定の回答が少数ある。保護者にとっては否定はゼロであってほしい項目である。教員が声をかけ合い、肯定の回答だけになることをめざしてほしい。
- 項目によって無回答の教員がいることは良くない。
- 新しく追加された「学校への貢献」に関する項目で、貢献感が少ない教員は、貢献したいができていないのか、貢献する気がないのかの分析が大事である。

[学校長]

- ・経験年数の分布より、6年目までの教員が約半数を占める。全体的に教員の経験不足は否めない。教員の年代や経験年数のバランスが悪い状況はすぐには改善できないので、今後も専門性の向上に努め、教員が自信を持って働くことができるような取り組みを進めていきたい。
- ・安全面について、取り組みを進めているが、少数の否定は、課題を感じている教員がいるとも読み取ることができる。教員同士の風通しの良い環境づくりを進め、より安全安心な環境づくりをめざしていきたい。

<授業アンケートについて>

[教頭より]

- ・概要の説明
 - ・今年度は2学期の参観の期間を一週間から二週間に増やした。結果として回収率の向上はみられなかった。来年度は再度、期間を一週間に戻す予定。お知らせの仕方など別途、回収数を上げる工夫を検討したい。
 - ・殆どの授業が平均点以上であった。
 - ・アンケート提出が1授業に1枚のみの場合、その1枚の結果がそのまま点数に出してしまうことになり、点数が低い授業もあった。
 - ・評価結果が低い授業に関しては、管理職から指導を進めている。
 - ・自由記述欄では、様々なご意見を保護者からいただいた。概ね良い評価だが、課題もみられる。
 - ・職員会議にて、教職員に結果を報告し周知した。
 - ・1学期のアンケートにて、保護者から指摘があった事項（呼名に関する事、否定的な表現での指導に関する事）については、改善が進んでいる。
- 一週間あれば、どの授業も観ることができるチャンスがある。引き続き続けてほしい。
 - 毎日来られる保護者もいる。限られた方が参観に来られ、特に気になることがなければアンケートを書かれないのではないかと。自由記述の方が保護者としては書きやすいと思う。
 - ひと授業にアンケートを1枚書くという意識が保護者にはないので、働きかけが必要ではないか。
 - 前回の参観で出てきた課題が改善されているのは良いこと。授業アンケートに関する結果や課題も、新しい年度に引き継ぐことができるようにしてほしい。

<平成 28 年度 学校経営計画評価（案）について>

[学校長より]

- ・今年度の取り組み内容と評価について説明。
- ・アレルギー対応について、研修等の対策をおこなった。

[准校長より]

- ・今年度の取り組み内容と評価について説明。
- ・学校教育自己診断アンケートで否定率の高かった項目に関する内容については、評価を△にしているところがある。今後も課題としたい。

Q. 進路について、就労の4名はどういった関係先なのか。

A. 企業・病院等である。

Q. 就労して、その後長く続けていくことが大切である。就労後のアフターケアについてはどうか。

A. 学校として、進路指導部を中心にアフターケアを行なっていく体制をつくり、学校が責任を持って卒業生のケアをおこなっていききたい。

- 卒業生本人も、学校を頼りとしていると思う。

[准校長]

- ・年2回、同窓会があるが、そこで卒業生が来校する。そういった機会も活用していきたい。卒業生が悩みなどを相談できるような環境や取り組みも考えていきたい。

<平成 29 年度 学校経営計画（案）について>

[学校長より]

- ・めざす学校像の欄は変更していない。
- ・中期目標は変更している部分がある。
- ・子ども中心・子どもにとって・子どもファーストを基本に考えていきたい。
- ・新教育課程に対応した教育課程の改善をおこなっていききたい。
- ・防災について、特に通学バスにおける対応について進めていきたい。
- ・風通しの良い組織風土づくりを進めていく。

[准校長]

- ・具体的取り組みで、スポーツ大会への取り組み、国際理解教育の充実、伝統音楽の機会の充実についての項目を新たに追加した。
- ・職業基礎コースをはじめ各コースの更なる充実についても追加している。

Q. 教育個人情報ポートフォリオとはどんなことか。

A. 例えば、個々の取り組み等の動画記録を積み上げていき、過去の振り返りができるようにするなど、個人の積み上げ・振り返りができるようなものができればと思う。

Q. 職業基礎コース以外のコースについて、新たに増えたりするのか。

A. 現在のコースの中身を見直し、更なる充実を図っていく。

[学校長]

- ・中期目標にも書いてあるが、平成 31 年度に本校創立 50 周年を迎える。今年度末から 50 周年に向けて検討を始めている。

- 支援学校の創立 50 周年というのはすごいことである。
- 風通しの良い組織風土づくりは是非進めて行ってほしい。
- 専門性についても、学び続ける教員、学び続ける学校であってほしい。
- 学校ホームページが新しくなるのは嬉しいこと。教員の意見が反映され、魅力的なホームページにしてほしい。
- 教員は忙しいと思うが、組織の再構築で教員の疲労感を減らすように進めていってほしい。
- 研究授業については、どのように進めて実施していくのか、具体的なサイクルを示しながら進めてほしい。

Q. 高等部において、実習先の開拓とあるが、外部講師とはどのようなことか。

A. 新たに取り組んでいきたいことである。内容については現在、職業教育の委員会にて検討を進めているところである。保護者向け、生徒向け、教員向けの講演なども考えていきたい。

- イオンなどでマナー教育等が実施されている。具体的でおもしろい取り組みなので参考にしようか。
- 卒業生が進んだ就労先の事業主なども講師としては良いのではないかと。幅広く探っていってほしい。
- 専門性を上げていくこともいいが、人間としての資質の向上も大事ではないか。教員もそうだが保護者についても、両者とも人間的資質を向上していく必要があるのではないかと。学校の近くにはお寺もあり、そういった場所で話を聞くなども良いのではないかと。資質を向上させる研修も取り入れてほしい。
- ゆとりのある、穏やかな学校になってほしい。

③ 諸連絡

- ・今年度 3 回の協議会にて、貴重なご意見ありがとうございました。
- ・協議委員の方々については、次年度も継続でお願いしたい。

以上